

劇団青年座

作：マキノノゾミ

演出：宮田慶子

# 赤シャツ

「赤シャツ」悪者」は坊ちゃんの思い込み？

日本文学史、百年来の誤解を晴らす！



現代演劇界の2大エースが文学史上の名作に挑む！

この日本文学史上不朽の名作への切なるオマージュを創るのは演出・宮田慶子と作・マキノノゾミ。1994年初演の「MOTHER」以来、読売演劇大賞をはじめとする数々の賞を総なめにしてきた、現代日本演劇界の最強2トップである。

新国立劇場の演劇部門の次期芸術監督に就任が予定されている宮田慶子。観客の期待を決して裏切らない

的確なディレクションは正に神業。今回は自らの所属する劇団青年座の俳優達を迎え、その匠の技術をも十分に披露する。

NHK連続テレビ小説「まんてん」の脚本で一躍全国区となったマキノノゾミ。ストーリーの豊かさの中にも常に人物の生き様を一貫して描いてきた。本作でも、ユーモアを交えながら織りなす赤シャツの悲哀が、観る人の胸をうつ。

## 劇団青年座『赤シャツ』

5/27 (木) 19:00 5/28 (金) 14:00

可児市文化創造センター 小劇場

全席指定 3,000円 18才以下 1,500円 **発売中**

5/28 (金) 終演後 マキノノゾミ氏、アフタートーク開催



お問い合わせ・チケット予約

TEL 0574-60-3050

インターネット・ケータイ予約可

<http://www.kpac.or.jp>



# 夏目漱石も納得！！ ハートフル文学コメディの傑作

文豪・夏目漱石の作品の中で最も多くの人々に愛読されている「坊っちゃん」。江戸っ子気質の教師である「坊っちゃん」が正義感に駆られて活躍する痛快さと、爽やかな読後感が、多くの文芸ファンを魅了してやまない。その痛快な物語の陰で「気味の悪いように優しい女の様な声」を発し、「坊っちゃん」にひたすら毛嫌いされる物語の悪役「赤シャツ」。

しかし、どうだろうか？我々読者が小説「坊っちゃん」の文中からこの人物を知るにはあまりにも、主人公・「坊っちゃん」の、主観的な視点のみで語られてはいないだろうか？

後の著書で、漱石がモデルは自分自身と語ったこの赤シャツ、小説で知られる程、嫌なヤツ、なのであろうか？

5月27日(木)～28日(金)の二日間、可児市文化創造センター・小劇場にてお送りする劇団青年座公演、「赤シャツ」ではそんな日本文学史を代表する悪役が善玉に変身！今ここで、自身のイメージに対する100年来の誤解を晴らすべく奮闘する！「坊っちゃん」を読んだことがある人はもちろん、読んだことのない人は先に本作を観て、その後元ネタを読むという様な楽しみ方も粹であろう。大人のハートフル文学コメディ、「赤シャツ」に乞うご期待！